

路線名	都道府県	対 象 区 間	１．整備手法の考え方	２．その他自由意見
常磐道	宮 城 県	新地 ～ 亘理	○「高速道路株式会社による有料道路方式」を望みます。 ○ 常磐自動車道全体の採算性や高速道路ネットワークとしての連続性から判断すると、「高速道路株式会社による有料道路方式」が妥当であると考えております。	常磐自動車道は、首都圏と東北の太平洋沿岸地域を結び、東北縦貫自動車道や東北横断自動車道と相俟って、東北地方における新国土形成と地域連携の強化を図る大動脈として極めて重要な路線であります。 当該区間は、福島県「富岡～新地」間と一連の区間として整備され、常磐自動車道としてのネットワーク化が図られることにより、その大きな整備効果が発現されるものであり、地域の自立的発展や物流の効率化、また、東北縦貫自動車道の豪雪等による通行不能時の代替路線として、さらには近い将来想定される震災への対応や広域ネットワーク化による医療の高度化などを支援していく上でも早期の整備が望まれるものであります。
	福 島 県	常磐富岡 ～ 山元	高速自動車国道の整備については、有料道路制度を最大限に活用しつつ、これまでの進度を確保しながら、国の責任において着実に推進すべきであると考えていることから、 「高速道路株式会社による有料道路方式」を選択する。	高速自動車国道は、都市が分散した特色ある７つの生活圏を形成している本県において、それら生活圏相互の「連携軸」として最も重要な道路に位置づけられている。 特に常磐自動車道は、東北縦貫自動車道と併せ、首都圏と東北地方との広域連携を強化する北東国土軸の一翼を担う極めて重要な路線である。 また、１０基の原子炉が立地する全国有数の電力供給地である浜通り地方における緊急避難路・輸送路としても早期の整備が必要である。 さらに、浜通り地方における高度な医療を担う病院までの６０分到達率は、本路線の完成で４０％から１００％となり、新生児医療や脳血管障害等の救急医療活動に極めて有効である。 これらのことから、本路線の全線供用による有機的な高速道路ネットワークの形成は、当県および東北地方の特色ある地域づくりに資する広域連携に不可欠であり、一括同時供用を要望する。